

久土神社に神が舞い降りた！

ふれあいプレス

発行 〒870-0314
大分市大字久土518-6
TEL.592-4272 Fax.592-4240
大分合同新聞
丹生プレスセンター
大分合同新聞・朝日新聞
毎日新聞・日本経済新聞

成長した舞に観衆は感動

丹溪神楽同好会(江藤哲夫会長)は、4月3日(日)、久土神社春祭り(今村英司区長)でお神楽を奉納した。五方礼始に始まり、籠弓・柴曳・五穀舞・大神の五演目を舞った。

花道からの登場場面や、舞の一つ一つに成長した姿が見られ、観衆を魅了した。ある男性は「昨夏丹生小学校の体育館で見た時の舞とは全然違う、感動した」と涙目で語った。

また、各演目の最後では太鼓、小太鼓、笛などが盛り上げ、声援や拍手が沸き起こった。

丹溪神楽同好会はこの後、4月10日(日)佐野お旅所、JA「丹生の郷」などの公演を予定している。



五穀舞

保食神の屍から、稲・粟・麦・豆・稗などの五穀や、牛・馬・蚕などが生まれ、それを高天原に持ち帰り、天の田畑に種を蒔いたという神話の舞。



籠弓(鹿兒弓)



五方礼始(土の神)



五方礼始

天の岩戸が開かれ、天照大神が連れ出されて再び世の中が明るくなったのを八百万の神々が鹿狩りに使う天之鹿兒弓と天羽羽矢を持ってお祝いに舞う神楽です。

東西南北中央の五方を護り給う、五柱の神々様が集まって、祠地を清め、神楽が無事に終わりますよう、お祈りするお神楽



パチを上げながら太鼓をたたくパフォーマンスも



柴曳

子供も泣き疲れてぐったり



大神

無事、天の岩戸も開かれ、神々様が大きいうたい舞い祝われた後、天兒屋根命が天下の治平を祝し舞い納めたお神楽

(裏面もご覧ください。)